

●現在の会員状況 (2011. 08. 03現在)

正会員 (個人)	88名
正会員 (団体)	5団体
賛助会員 (個人)	46名
賛助会員 (団体)	2団体
寄付	24名



また新たに沢山の方が入会してくださ
り、寄付もしていただきました!!
皆様のご支援、心より感謝いたします。
今後もよろしくお願い致します。

～ピピオからのお知らせ掲示板～

お 願 い

- ・「ピピオ子どもセンター」は、主に会員の会費と寄付によって運営される団体であり、多くの方のご支援がなければ成り立ちません。そのため「ピピオ子どもセンター」では、法人案内のパンフレットを作成し、広く入会申込及び寄付の募集をさせていただいております。パンフレットの送付を希望される方は事務局まで御連絡下さい。
- ・家具等の物品類に関しては、皆様方のご協力により必要最低限のものをまかなうことができました。ありがとうございました。NPO法人ピピオ子どもセンターでは、今後自立援助ホームの開設も検討しており、再度家具家電等を募集することもあるかと思ひます。その際もご協力頂ければ幸いです。



発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0005 広島市中区西白鳥町16番7号 NIDI ビル 202 那須法律事務所内
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-299-7629

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 4

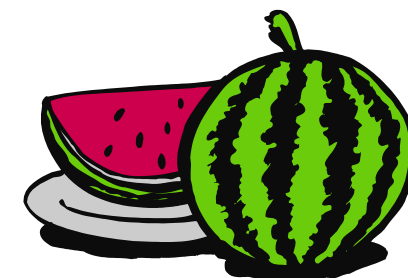
平成23年8月10日

●子どもシェルター「ピピオの家」受入開始!!

皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、子どもシェルター「ピピオの家」を開設し、実際に子どもの受け入れを開始してから、早くも4カ月近くが経過しました。これまで男女合わせて5名の子ども達が「ピピオの家」に入居し、中には既に新しい生活環境を見つけ「ピピオの家」を退所した子ども達もいます。子ども達は、「ピピオの家」で暮らし、いろいろ悩み葛藤を繰り返しながらも、周囲の大人達と一緒に生活する同年代の子ども達との交流を通じて、少しずつ前向きに自分の人生を考えられるようになりました。その様子は、まさに「ひなぼと」達が巣立っていくようでした。私達もそんな子ども達から日々勉強させられていることに気付かされています。

今後も、多くの行き場をなくした子ども達が「ピピオの家」にやってくると思いますので、引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。「ピピオの家」では、現在特に衣類が不足しております。新品の衣類がございましたら、寄付のご協力をお願いいたします。また、今後冬場を迎えるにあたって毛布等が必要になってくると思います。その他にもお米などの食料品も寄付していただくと大変助かります。ご協力いただける方は、ピピオ子どもセンター事務局までご連絡いただければ幸いです。



会員の皆様へのご挨拶～第4回～ 桑原正彦

平成23年4月、「NPO法人ピピオ子どもセンター」の子どもシェルター「ピピオの家」が開設した。

関係者、特に、広島弁護士会の皆さん、協力するボランティアの皆さんの努力には敬服するほかない。

情熱の塊というか、執念の虜というか、彼らの行動が社会を変えていくのであると、最近つくづく思うことである。

揺れる思春期の子ども達の中には、家庭の破壊、真の友人の不足、経済的貧困などのために、不幸にして、彼らの人生進路を間違えている少年・少女がいる。彼らを、誰が、どのようにして、矯正させるかは、日本の社会にとって、大きな課題であるが、このことに、真剣に取り組んでくれる行政や関係機関は少ない。今回のピピオの取組みは、地方自治体としては、全国5番目である。

全国206か所の児童相談所の人たちも、スタッフの少ない中、日夜、大変な努力をしておられるが、お役所としての立場もあり、彼らの努力にも限界がある。彼らの仕事を支援し、民間としての自由度を生かした活動を、「ピピオ」は狙っていると、私は考えている。

私は小児科医であるが、「小児科医は社会を治す医師」と日頃から思っている。私たち小児科医の研究・診療分野には、思春期小児科学、児童虐待防止学、小児心身医療学、小児救急医療学などの範疇があり、多くの小児科医が、活躍している。

今回、「ピピオ」の一員に加えて頂いて、実に様々なことを教わった。特に、子ども達と対応する実践技術や24時間の生活に密着しての対応には、勉強させられる。特に、子ども達の尊厳や意欲を無くさないような指導技術である。スタッフの皆さんに感謝を申し上げる。

「ピピオ」の次の事業目標は、「シェルター」を出てからの、収容施設の新設である。この「一時保護施設」の早期開設に向けて、「ピピオ」の一同は、努力をしている。

“ 本当にピピオ関係者のみなさんに感謝しています。

今は、まだまだ不安だらけだけど・・・

今日から、また新しい道に進んで行きたいと思ってます “

「ピピオ」から退所して行く子ども達の手記を読んでいると、この事業に情熱を傾ける関係者の気持ちが、理解できるような気がしてきた。

今後、関係者の、物心両面での、ご支援をお願いすること切である。



NPO法人ピピオ子どもセンター

理事 桑原 正彦

●「ピピオの家」開設記念イベント開催！！

平成23年4月23日、広島市青少年センターにて子どもシェルター「ピピオの家」開設イベント『子どものための居場所を作ろう！！』が開催されました。

第1部の演劇「はばたけピピオパート2～見上げてごらんあなたの空だよ」は、どこまでも続く青い空が、子どもたちと大人との心をつなぐ象徴として、いついつまでもそこにあり、何が起こったとしても子どもたちの未来を守っているというテーマでなされました。

子どもたちと同世代の舟入高校演劇部の学生たち、そして大人である弁護士らの熱演は、臨場感に富み、多くの心を動かしたとの評判を得ました。

第2部のパネルディスカッションでは、ピピオの鶴野理事長、中本理事に加え、横浜と名古屋で既にシェルター運営に携わっている高橋温氏、高橋直紹氏が登壇しました。それぞれの立場からの実体験によるお話は、熱い温もりをもっており、ご来場くださいました皆様から「これから自分も子どもたちのためにできることを考えていきたい」との多くの声をいただきました。

●ピピオスタッフへのインタビュー

「ピピオの家」を支えるスタッフ。いつも、子ども達の衣食住をサポートし、子ども達に寄り添ってくれています。今回はそんなピピオスタッフの方からお話を伺いました。

Q ピピオスタッフになってみての感想をお聞かせ下さい。

毎日の献立は大変ですが、そこは強き味方のボランティアさんのアイデアや協力をいただいています。特別難しく考えず「家庭をする」仕事だと感じています。集まる子どもたちは様々な経緯を持っていますが、そこには1つの社会ができています。そんな彼らから今日は一体何を気づかせてもらえるか、毎日が楽しみです。

Qピピオスタッフになって良かったな～と思うのはどんな時ですか。

子ども達がそれぞれのこれまでや将来についての思いを話してくれたりすると、心許してくれる存在になれたのかな、と思えます。また、食事を囲んで楽しく食べたり、互いに仲良くしたりしている様子を見ると嬉しく思います。

Qピピオスタッフのやりがいは何ですか。

子どもたちにとっての、安全で安心して暮らせる居場所を作ることです。また、ここを出てからの成長ぶりもきっとやりがいになると思います。

Q「ピピオの家」がより良くなるためには、どうしたらよいと思いますか。

短期の滞在となる「シェルター」ですが、日々気持ちよく生活できるよう、互いを思いやる気持ちは必然です。また、たくさんのボランティアさんのマンパワーもなくてはならないものです。子どもたちと一緒にあって、関わる大人たちみんなで支えているという認識が大事だと思います。

Q最後に一言

本来の家庭に居場所のない子どもたちが実際におり、再統合や環境調整には大変な時間とマンパワーが必要なのも現実です。それが整うまで、子どもたちと一緒に待っています。ピピオで寄り道している間にできた多くの信頼できる大人との出会いを、今後の人生で心温まる一コマにしてもらえたら素敵だと思います。

※スタッフの皆さんご協力ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。